

## 特別研修

### 月例研究会 議事録 ( 7 月 )

2007 年度第 3 回

<b>報告題名：</b> 韓国における地域農業環境政策展開の現状と課題 －忠南牙山市資源循環型親環境農業クラスターを事例に－	
<b>報告者</b> 朴 相賢 (所属分野) 経営情報学分野	<b>日時</b> 7月19日 午後3時～午後5時 <b>場所</b> 第7講義室
<b>座長</b> 池田	<b>議事録担当者</b> 西橋
<b>出席者</b> 工藤、斉藤、伊藤、冬木、川島、木谷、大鎌、両角、長谷部、石井、佐藤(章)、朴、澁谷、平口、鹿嶋、水澤、小山田、阿部、池田、鈴木、西橋、飯塚、大森、紺野、高嶋、デッフィ、村松(優)	
<b>報告要旨</b> <p>1970年代、自主的に有機農業を実践した生産者たちによって始まった韓国の環境保全型農(以下、親環境農業)は、1990年代の前半までは農業政策の対象外存在であった。</p> <p>しかし、1994年農林部に環境農業課が新設されたことにより本格的に推進されはじめた農業環境政策は、1996年「21世紀にむけた農林環境政策」実践計画が公表された以来現在に至るまで多様な政策が導入されてきた。</p> <p>一方、地域単位の政策の推進は2001年に「親環境農業育成5ヵ年計画(01～05)」が樹立されることにより、地域単位の農業、畜産、林業などを連係した資源循環型農業の育成を目標として本格的になりはじめた。</p> <p>以来、農薬や化学肥料及び畜産糞尿などの汚染源を軽減するための、また農業資源環境を維持、改善するための政策的支援が行われてきたが、その政策的効果は未だ低い状況である。</p> <p>こうした中で、近年地方自治体を中心に、地域環境に適合した地域循環型環境農業システムの構築に向けての活発な動きがみられている。</p> <p>そこで、本研究では忠南牙山市資源循環型親環境農業クラスターを事例として、地域農業環境政策展開の現状と課題などを検討する。</p> <p>と同時に、地域循環型環境農業システムを定着させるための条件や各主体の役割などを明らかにするのがその目的である。</p>	

## 質疑・応答

池田：「クラスター」の定義は何ですか。

朴：「分野の異なる組織の協力体」です。

石井：96年に30戸の農家が生産者団体を設立したわけですが、このような環境保全、安全な農産物の生産を目的とする農業を行うに当たっては、消費者団体からの支持も重要だと思います。消費者団体の関わりはこれまでにあるのでしょうか。

朴：消費者については、生産者の方たち自らがハンサルリム牙山生協を立ち上げることにより取り組んでいると言えます。また、ハンサルリム全国連合（生協）と連携することで、農産物を全国的に流通させています。これによって地域内で消費しきれないものを、全国的に供給するという形が実現されています。

石井：当初の30戸の農家はどのようにして消費者を開拓していったのですか。

朴：実は今回の発表で述べられている団体の以前に、1970年に一度、生産者団体が設立された経緯があります。それは組織の運営上の問題が発生して、なかなかうまくいかなかったのですが、その時の消費者がまず挙げられます。それに加えて、食に関する事故の発生による安全な食べ物への関心の高まりや、Well-beingの社会現象化といった中で、環境保全型農業の農産物の需要が伸びたという社会的な要因が、今回の取り組みに消費面から作用したと思います。また、先ほど述べましたように、自分たちで生協を作って、消費者と直に接触するなどして、販路を確立するための取り組みを行っています。同時にハンサルリム全国連合との連携にも取り組んでいます。ただし、以上のように消費者との関係について述べましたが、販売面についてはまだ分析し切れていない問題もあります。

石井：韓国の畜産について、環境保全型農業を行う際には、日本のように輸入飼料の問題は無いのでしょうか。

朴：畜産に関しては日本と同じ状況だと思います。しかし、今回の事例は地域内のクラスターを動かして、有機肥料を軸にした農業の地域内循環の実現を目指すものです。全国でも初めての取り組みとなっています。現在は試験段階で、定着にはまだ時間がかかります。財政的な問題もそのためにクリアすべき問題の1つですが、現在導入している国の地域クラスターモデル事業が今年で終わるのを受けて、(去年から始まっている)広域親環境農業団地造成事業に切り替えることで対応しています。

冬木：今回取り上げている牙山市の事例は先進的なものであるようなので、他の研究者が取り上げている既存研究があると思います。その中でも今回の朴さんの研究は、クラスターに焦点を当てていることに独自性があるのでしょうか。

朴：そうではなく、私は、牙山市の地域全体に循環モデルを定着させるために必要な関連自治体の役割を明らかにしたいと思います。クラスターは、その要素の1つとして捉えていますので、それだけに焦点を当てているわけではありません。

冬木：農協と関係（の良し悪し）はどのようなものですか、詳しく教えてください。

朴：互いに役割分担を行うことで、農協との関係は良いといわれています。また組合法人の代表の方が地元出身の方で、地域から大きな信頼を得ているということも作用しています。ただし、今後は利益に関する点では互いに競合しあう関係になっていく可能性はあります。

地元出身の方で、地域から大きな信頼を得ているということも作用しています。ただし、今後は利益に関する点では互いに競合しあう関係になっていく可能性はあります。